

式辞

「夢に向かって、歩んでほしい」



輝かしい平成三十一年の新春を迎え、本日晴れて成人式を迎えられました六十四名の皆様、ご成人、誠におめでとうございます。そして、皆さんを愛情深く立派に育て上げられました、ご家族の皆様方に対し、敬意と感謝の念を表する次第であります。

さて、成人となられました皆さんは、大きな「人生の節目」を迎えました。

今後は社会の一員として地域社会の発展のために貢献し、日本の未来を担うという重い責任が生じて参りますが、これらのことを自覚し、自らの判断と責任により行動することが求められます。

本日、新たに成人された皆様のこれからの道のりは、決して平坦ではありませんが、一日一日を大切に積み重ね、十年後・二十年後の自分自身の理想を思い描きながら、夢に向かって努力し、歩みを進めてください。

共通の思い出を持つかけがえのない仲間がいるこの川根本町は、皆さんのふるさとです。生まれ育った川根本町という小さな町が、未来に向かって、力いっぱい頑張っているということをぜひ忘れないで下さい。

結びに、これまで深い愛情をもって献身的に皆さんを育ててこられた、ご家族への感謝とふるさとを愛する心を忘れることなく自らの夢の実現と川根本町の未来のためにご活躍されることを期待し、また、希望に満ちた皆さんの更なるご健勝とご多幸を祈念し、式辞とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

本日は、お忙しい中私たち新成人のために、鈴木町長様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、このような盛大な式を催してくださり、誠にありがとうございます。また、多くの方々から、お祝いや激励のお言葉をいただき、新成人一同心よりお礼申し上げます。本日、晴れて成人という節目を迎えることが出来ましたのも、家族や友人をはじめ、先生方、今まで関わってくださった多くの方々のお陰と改めて感謝するとともに、社会人としては一人前とは言い難い私たちを、このように祝い激励してくださったこの会場の皆様に対し厚く御礼申し上げます。

「平成最後」の今年を振り返るとさまざまなことがありました。平成の怪物といわれているプロ野球選手、松坂大輔投手の完全復活。私たちが生まれた年に甲子園で優勝した松坂投手の復活は今年一番印象に残っています。同年代でいうと平昌オリンピックでスノーボード、ハーフパイプの銀メダルを獲得した平野歩夢選手。同年代の方が世界で活躍する姿に感銘を受けました。

川根本町では、近年、川根留学制度を設けて町外から川根高校に多くの生徒が通っています。また、トーマスのイベントや夢のつり橋に多くの観光客が川根本町を訪れています。私は、留学生や観光客の方の多くが、「川根本町の人はみんな温かい人ばかりでいいところだ」ということを話しているのをよく耳にします。普段、川根本町で生活していると、この町の温かさが当たり前前に感じてしまっています。しかし、町外で生活してみるとこの町の方々の温かさが素晴らしいものだとすぐに分かりました。私は、高校で野球部に所属していました。高校野球を続けてこられたのも地域の方々のおかげだと思っています。練習が大変な時などに地域の方々の応援がものすごくいい力になりました。私が一番に残っているのが夏の選手権大会です。島田球場が川根高校の応援

謝辞



「この町は安心できるふるさと」

川畑賢太郎さん(崎平)

で埋め尽くされていたこと今でも覚えています。初戦で負けてしまいました。地域の方々の応援がものすごく力になりました。以上を力を出すことができました。ここまで地域の方が応援してくださる高校は他にないと思います。私は、そのことを感謝し少しでもこの町のために恩返しができると思っています。

私は今、町外に住んでいます。川根本町に帰ってくると、なぜかとても安心します。それは、この町がいつでも帰ってくるので私の心のふるさとだからです。いつでも帰ってくるので場所があることはとても幸せなことだと思います。生まれ育った、この町で成長することができたことは私の大きな財産です。

私の好きな歌の歌詞に「もしも失敗したって何度でも立ち上がればいい」という言葉があります。私たちはこれからの人生の中で多くの失敗をします。川根本町で学んだことを活かしてどんどんチャレンジしていきたいと思っています。

本日は誠にありがとうございました。



記念品授与

小田桃香さん(藤川)